



「五ヶ瀬中学校校歌より」

学 び 舎

五ヶ瀬中学校校長室だより
平成30年5月31日
No.2
文責：校長 戸敷二郎



—人づくり・地域づくり— 中山間地 エリア会議 が開催されました！



今月11日（金）に、宮崎県キャリア教育支援センターが主催する『人づくり・地域づくり 中山間地エリア会議』が上組小学校を会場に開催されました。この取組は、県内の中山間地域を年度ごとに会場を変えながら、この地域が抱える過疎化や少子高齢化などに対する取組事例を発表したり、次世代の後継者等の育成に向けての協議を行うものです。

本校からは、午前中に生徒会執行部の3年生3人が、これまで自分たちが小学生時代から取り組んできた「豊かな体験活動」について発表し、県内外からの参加者からの質問に答えました。また、午後からは3年生全員が参加し、交流活動としての「トーク・フォークダンス」を行い、こちらも県内外からの大人達と3年生が町のPRをしたり、PRに対する質問に答えたりしました。

参加者からは、「中学生が町の課題を自分たちのこととしてとらえ、今の自分たちにできることを考え必死に取り組んでいる姿に感動しました！」などの極めて高い評価を多くの方々からいただきました。

五ヶ瀬教育ビジョン策定から10年の節目にこのような機会を得て、これまでの諸先輩方が築きあげてこられた教育ビジョンの先見性の高さと、それを支え続けていただいている五ヶ瀬町の皆様に改めて感謝したいと思います。



午前中の発表者3人（右写真）からは、「五ヶ瀬は自然の豊かさや食べ物のおいしさなど、自慢できることがたくさんありますが、何よりも自慢できることは人の優しさと人のつながりです。」といった言葉が聞かれ、参加していた私達五ヶ瀬町の関係者は目頭が熱くなる思いがしました。

今回の様子は、5/19付けの宮日新聞と5/26放送のMR Tテレビ「みらい・みやざきまなび隊」それぞれで紹介されました。



平成30年度生徒総会が開催されました

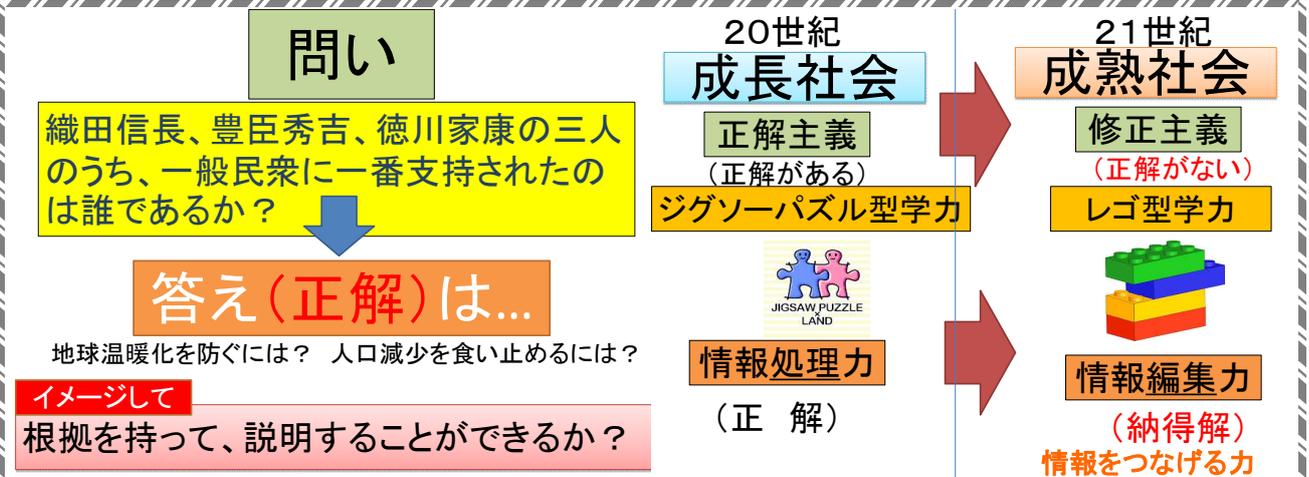
今月29日（火）に生徒総会が行われました。藤井詩生徒会長をはじめ、役員の子供たちは中体連大会前の忙しい時間を使ってしっかりと準備をしてくれました。総会決議で本年度のスローガンが『77の絆～伝統を刻む節目の1ページ～』と決定しました。

学校統合から3年目の節目を迎え、77名全校生徒の制服が揃い、新たな伝統を刻む1年にしたいとの強い思いが込められています。全員が五ヶ瀬中学校入学生徒となった今年、次の世代に更により形でバトンタッチできるように頑張っていきたいという全校生徒の決意です。ご期待ください。

また、総会後半には生徒会総務からの提案議題として「通信機器の利用について」全体協議が行われました。先生や大人が作ったルールを守られるのではなく、自分たちで作ったルールを自分たちで守りながら、将来の社会生活に備えていこうとする主体的な取組です。「早寝・早起き・朝大豆」運動とも深く関わる内容ですので、最終的なルールの完成とその後の生徒たちの取組が楽しみです。前号でお知らせした教育振興会重点取組と合わせて、子どもたちの将来を守って参りましょう。

正解のない問い

～高大接続改革や入試改革を見つめながら～



上に示したプレゼンテーション資料は、私が「睡眠に関する講話」で使っている画面です。作成したのはもう4年ほど前になりますが、現在の講話でも後半にこの画面を使って話をしています。

これまで私たち大人達の学生時代は「**正解**」を出すことを目的として学習をしてきたという背景があります。簡単に言えば、暗記型やパターン習得型の学習が多かったのです。確かに、現在の子供たちの学習にも暗記しなければならない内容やパターンに当てはめた解き方をしなければならないものはたくさんあります。しかし、これからの時代を生きていく人間には、「**正解のない問い**」への「**納得解**」を導き出す力も要求されています。

その理由は単一のことではありませんが、大きな理由の一つとして昨年の「学び舎No.12 テーマ9の～想像するちから～」でもお伝えした人工知能(A.I.)の登場があげられます。要するに、「マニュアル化できる仕事はA.I.やロボットなどに置き換えられていく。」という例の話です。人間にしかできない仕事は、予測不可能なことや目まぐるしく変化をすることに**想像力を働かせながら臨機応変に対応しなければならない分野**に多く残されてくるということです。

以下の問題は東京の有名私立大学の二次試験問題です。チャレンジしてみてください。自分の考え(正解のない問いへの答え)を400字にまとめることは、日頃から相当訓練しておかないと難しいと感じています。

【設問】

「ある星から地球に視察にやってきた宇宙人が、次のような質問状を残していきました。

『地球で一番驚いたことは、地球人が国と呼ばれる単位に分かれて暮らしていて、国ごとに異なる制度の下で競い合っていることです。私たちの星には、国という制度ばかりか、その概念すらありません。そこでお聞きしたいのですが、地球人はなぜ国という単位に分かれて暮らすことを好むのですか?』

以上の質問状に書かれた問いに答える形で、宇宙人への返事を400字程度で書きなさい。

- ・ 解答の形式：A-3原稿用紙形式
- ・ 試験時間：45分

これが5年前、2013年度の入試問題です。もちろん、これが「**正解**」といった模範解答がある訳ではなく、自分なりの知識や経験や考えを整理して「**納得**」させられるか?という形の問題です。当然、採点する側も相当な労力を要する作業にはなりますが、大学入試センター試験の改革もこのことを覚悟して大胆な改変作業を進めています。保護者として、そして子供たちは当事者としてこれらのことを意識した毎日を過ごさなければならない時代に入ってきています。